

## 第一次世界大戦と日本のキリスト教会

—内村鑑三の戦争観と大正期ホーリネス・リバイバル—

黒川 知文

### 序 問題提起

大正期における再臨運動は、第一次世界大戦の最終段階である 1918 年 1 月に生起した。従って第一次世界大戦と再臨運動には何らかの関係があると思われる。再臨運動の指導者の一人であった内村鑑三は、第一次世界大戦をどのようにとらえて再臨運動に参加したのであろうか。また、聖書は再臨のしるしについてどのように述べられており、それが第一次世界大戦の時代においてどのように適用されるのであろうか。

他方、大正期ホーリネス・リバイバルは中田重治に指導されて再臨運動が衰退する時期に、再臨運動を継承するかのよう生起して展開した。再臨運動と大正期ホーリネス・リバイバルとはどのような性格の宗教運動であろうか。

本稿においては、内村鑑三の戦争観の変遷を分析し、聖書の再臨のしるしが第一次世界大戦の時代にどのように適用できるかを検証する。そうすることにより内村鑑三の再臨論の根拠を考察したい。さらに再臨運動と大正期ホーリネス・リバイバルとを比較検討する。

先行研究には、先駆的研究として池上良正による『近代日本の民衆キリスト教』（東北大学出版会、2006 年）と、ホーリネス教団により体系的にまとめられた『歴史資料集』（2004 年）と『ホーリネス信仰の形成』（2010 年）、拙著『内村鑑三と再臨運動』（新教出版社 2012 年）がある。

史料は、第一次史料である『聖書之研究』と『聖潔之友』を中心に使用する。

## 1 内村鑑三の戦争観

内村鑑三の戦争観は、日清戦争、日露戦争、第一次世界大戦の時期において顕著に変化している。順にみていく。

### A 日清戦争の時期

内村鑑三は、開戦3か月後の1894年10月に「日清戦争の目的如何」と題する論文において、日清戦争義戦論を展開した。内村は、他の多くの国民と同様に日本は必ず勝利すると論じた。そして日清戦争の目的は、①朝鮮の独立、②清国に対する懲戒、③東洋における平和にあると、以下のように論じている。(波線内村)

日清戦争宣告せられて、勝敗の帰するところはすでに定まれり。これを兵の精鋭に徴するも、これを国民の意向に質すも、これを宇内の気運に問うも、これを歴史の趨勢に照らすも、日本の勝利は疑うべきにあらず。余輩のこれを言うは、余輩の愛国的偏執によるにあらずして、公平なる歴史的観察と、静寂なる哲学的黙考とが、かく言わしむることを余輩に許すなり。……日清戦争の目的いかに。……一、朝鮮の独立を確定するにあり。二、シナを懲戒し、これをして再び頭をもたげ得ざらしむるにあり。三、文化を東洋に施き、長くその平和を計るにあり。……シナを救わんとするが日清戦争の目的なりとせば、この戦争において吾人の取るべき方針は最も簡単にして最も明瞭なり。一、吾人は北京政府をして、吾人の真意の存するところを知らしむることを努むべし。……二、吾人はよろしくシナ国民に向かいて、北京政府今日の醜状を訴え、その政略たる、ことごとく自己を利するにありて、シナ国の安福を計るをあらざるを示し、十九世紀の今日、もし国家を挙げてこれをその軟弱なすなきの手にゆだねおくは、亡国の悲運を招くの道たるをさとし、彼らシナ人をして、大いにみずから省みるところあらしむべし。……三、吾人は文明諸国に向かい、充分に吾人の志を明らかにし、吾人みずからこの戦争により自利的結果を望まざるがごとく、諸強国もまた輓近露土戦争におけるがごとく、交戦国の流血より中立国の強大をいたすがごときことなからしむべし。否、吾人の目的は全く敵国の釐革改造にあれば、諸

強国は吾人の志望を賛し、平和的手段をもって、吾人のなさんところを助け、清廷に促して革命的大改革を実行せしめ、もしこれをなすあたわずんば、徳義的強迫をもって、清朝の政権を進歩的新政府に譲らしむべし。……天の命ありて、日本初めて/青海原より起ちし時/その特職なればとて/守護の神はたたえていわく/日本国よ、東に覇たれ/日本人は讐を挫かじ。<sup>1</sup>

しかし、日清戦争中における民衆の困窮した生活に接することにより、しだいに内村の戦争観は変化する。内村は1895年3月に日本が勝利した翌年の1896年12月に「寡婦の除夜」と題する以下の歌において、戦後における庶民生活の厳しい状況を詠っている。

明治29年〔1896年〕の歳末、軍人が戦勝に誇るを憤りて詠める「寡婦の除夜」

月清し、星白し  
霜深し、夜寒し  
家貧し、友少し  
歳尽きて、人帰らず

思いは走る西の海  
涙は凍る威海湾  
南の島に船出せし  
恋しき人の跡ゆかし

人には春の晴れ衣  
軍功の祝い酒  
われには仮りの侘び住まい  
ひとり手向くる關伽の水

---

<sup>1</sup> 『国民の友』1894年10月

われ、むなしゅうして人充ち  
われ衰えて国栄ゆ  
貞を冥土の夫に尽くし  
節を戦後の国に全うす

月清し、星白し  
霜深し、夜寒し  
家貧し、友少し  
歳尽きて、人帰らず

『福音新報』1896年12月

夫は日清戦争に参加したが、戦死して帰らなかった。家は貧しさの中にあり困窮し、日本は戦争に勝利したが、民衆は存亡した。戦争の被害者であった民衆の生活を知り、それに同情を覚えた内村は、戦争反対論者へと変貌していく<sup>2</sup>。

## B 日露戦争の時期

内村の非戦論は、1903年に以下のように「戦争廃止論」として現れる。

余は日露非開戦論者であるばかりではない、戦争絶対的廃止論者である。  
戦争は人を殺すことである。そうして人を殺すことは大罪悪である。そ  
うして大罪悪を犯して、個人も国家も永久に利益を収め得ようはずはな

---

<sup>2</sup> 鈴木範久は、名古屋における内村宅近くの練兵場での戦勝宴に内村は反感を覚えたことを以下のように指摘する。「このころ、内村は名古屋の学校に勤めていて、その近くに練兵場がありましたから、実際の見聞から生まれた詩とみることができます。内村はこれ以後、しだいに非戦論に傾いていきます」鈴木範久『道をひらく 内村鑑三のこぼし』NHK出版、2013年、117頁。山本泰次郎は、この歌は近代日本に現われた最初の非戦歌の一つだとして「実に内村の可戦論への訣別の歌であると同時に、非戦論者としての決意と門出をかざる出陣の詩であります」と述べている。山本泰次郎『内村鑑三の根本問題』教文館 1968年、55頁。

い。世には戦争の利益を説く者がいる。しかり、余も一時はかかる愚を唱えた者である。しかしながら今に至ってその愚なりしを表白する。…  
…二億の富と一万の生命を消費して、日本国がこの戦争より得しものは何であるか。僅少の名誉と、〇〇〇〇伯が侯となりて彼の妻妾の数を増したることのほかに、日本国はこの戦争より何の利益を得たか。その目的たりし朝鮮の独立は、これがために強められずしてかえって弱められ、シナ分割の端緒は開かれ、日本国の分担は非常に増加され、その道徳は非常に墮落し、東洋全体を危殆の地位にまで持ち来たったではないか。  
 この大害悪、大損耗を目前に見ながら、なおも開戦論を主張するがごときは、正気の沙汰とはとても思われない。……しかしながら、戦争廃止論は今や文明国の識者の世論となりつつある。そうして戦争廃止論の声の揚がらない国は未開国である。しかり、野蛮国である。<sup>3</sup>

戦争は結局のところ「人殺し」であり、殺人は大罪である。日清戦争によって朝鮮の独立は阻害され、清国は分割され、東洋の平和は遠のき、道徳が荒廃してしまった。内村が論じた日清戦争の目的はことごとく達成されず、かえって状況は悪化してしまった。内村は、戦後の状況を見て、「戦争廃止論」をとるに至った。<sup>4</sup>内村は、さらに論文「平和の福音 絶対的非戦主義」において以下のように聖書にもとづく絶対的平和を主張している。

聖書の、ことに新約聖書の、この事に関して私どもに命ずるところはただ一つであります。すなわち絶対的の平和であります。いかなる場合においても剣をもって争わないことでもあります。……絶対の平和は、聖書の明白なる訓戒でありまして、私ども、もし神と良心とに対して忠実ならんと欲すれば、この態度を取るよりほかに道はありません。……ク

<sup>3</sup> 『万朝報』1903年6月

<sup>4</sup> 松沢弘陽は「日清戦争以後の世界におけるさまざまな悪が、多かれ少なかれ日清戦争に発しているという認識と、聖書への集中とがあいまって、彼の終末論的な傾向をおびた絶対的平和主義を生み出したのだった」と述べている。『日本の名著 38 内村鑑三』中央公論社、1971年、46頁。

ロンウェルの理想は、彼が血を流したゆえに、彼の死後四百年後の今日に至るも、いまだ世におこなわれていません。<sup>5</sup>

この論文において内村が引用した聖書の箇所は以下の通りである。(新改訳聖書使用)

「平和をつくる者は幸いです。その人たちは神の子どもと呼ばれるから」  
マタイ福音書 5:9

『目には目で、歯には歯で』と言われたのを、あなたがたは聞いています。しかし、わたしはあなたがたに言います。悪い者に手向かってはいけません。あなたの右の頬を打つような者には、左の頬も向けなさい。あなたを告訴して下着を取ろうとする者には、上着もやりなさい。あなたに1ミリオン行けと強いるような者とは、いっしょに2ミリオン行きなさい。求める者には与え、借りようとする者は断らないようにしなさい」

マタイ福音書 5:38-42

「そのとき、イエスは彼に言われた。『剣をもとに納めなさい。剣を取る者はみな剣で滅びます。それともわたしが父にお願いして、12軍団よりも多くの御使いを、今わたしの配下に置いていただくことができないとでも思うのですか』」

マタイ福音書 26:52-53

「あなたがたは、自分に関する限り、すべての人と平和を保ちなさい。愛する人たち。自分で復讐してはいけません。神の怒りに任せなさい。それはこう書いてあるからです。『復讐はわたしのすることである。わたしが報いをする、と主は言われる。』もしあなたの敵が飢えたなら、彼に食べさせなさい。渴いたなら、飲ませなさい。そうすることによって、あなたは彼の頭に燃える炭火を積むことになるのです。悪に負けてはいけません。かえって、善をもって悪に打ち勝ちなさい」

ローマ書 12:18-21

---

<sup>5</sup> 『聖書之研究』1903年9月

「主は国々の間をさばき、多くの国々の民に、判決を下す。彼らはその  
剣を鋤に、その槍をかまに打ち直し、国は国に向かって剣を上げず、二  
度と戦いのことを習わない」

イザヤ書 2:4

ところで、戦争論には、聖戦論、義戦論、非戦論とがある。内村は、以下の  
ように、「近時雑感」において義戦論を否定している。

義戦の迷信……もし世に義しき罪があるならば義しき戦争もあるで  
あろう。しかし正義の罪悪のない間は（そうして、かかるものありよ  
うはずはない）、正義の戦争なるものありようはずはない。<sup>6</sup>

内村は、さらに10月に万朝社を退社する際に黒岩涙香にあてた覚書におい  
て、「小生は日露開戦に同意することをもって日本国の滅亡に同意することと  
確信いたし候」と非戦論を提示している。<sup>7</sup>しかし、非戦論を展開した内村だ  
が、1904年に日露戦争が開始されると、非戦論は唱えていない。「国難に際し  
て読者諸君に告ぐ」には以下の文章がある。

今や国難の時なり。われらはことさらに固く午後七時の祈祷の時を守  
るべきなり。われらはこの時に、心を一にし意を一にして神に祈るべき  
なり。第一に、国のために、第二に、四千五百万の同胞のために、第三  
に、家を背にして戦地に向いし勇敢なる兵士のために、第四に、その家  
族のために、第五に、われらの同志にして身を敵弾にさらす者のために、  
しかしてまたわれらの敵人のために、われらは熱き信仰をもって祈るべ  
きなり。……戦争の悪事なると否とは今や論争すべき時にあらず。今は  
祈祷の時なり。同情、推察、援助、慰藉の時なり。今の時にあたってわ  
れらの非戦主義を主張して、あわれみの手を苦しめる同胞に藉さざるが

---

6 『聖書之研究』1903年9月

7 『万朝報』1903年10月

ごときは、われらの断じてなすべからざることなり。われらは、各自、手に手にギレアデの乳香を取り、わが民の娘の痛める傷を癒やさばや(エレミヤ8:22)。<sup>8</sup>

このように、ひとたび戦争が開始されると、非戦論を唱えずに、国のために、同胞のために、兵士とその家族のために祈ることを内村は主張している。さらに敵のためにも祈れとも論じている。これは、イエスのことばである「あなたの敵のために祈りなさい」からの引用だと考えられる。

内村は非戦論に転じた理由を、「余が非戦論者となりし由来」において以下のように、①聖書の教え、②個人的な経験、③世界の歴史、④米国の新聞記事の内容の4点だとしている。

一、私を非戦論者にしたものの中で最も有力なるものは、申すまでもなく聖書であります。ことに新約聖書であります。……二、私をしてほとんど極端なる非戦論者ならしめし第二の原因は、私の生涯の実験であります。(無抵抗の実験) 三、私をして非戦論者とならしめし第三の動力は、過去十年間の世界の歴史であります。(日清戦争と米西戦争) 四、私を非戦論者になした第四の機関は、米国マサチューセッツ州スプリングフィールド市において発行せらるる“The Springfield Republican”という新聞であります。<sup>9</sup>

②個人的な経験に関しては、独立雑誌廃刊と親戚との確執に対して内村は無抵抗であったこと<sup>10</sup>、また④米国の新聞記事は米国の親友ベルから送られてき

---

<sup>8</sup> 『聖書之研究』1904年2月

<sup>9</sup> 『聖書之研究』1904年9月

<sup>10</sup> 小原信は「弟妹たちに対しては鑑三はあらわな抵抗とか反逆をしていない」と述べている。小原信『内村鑑三の生涯』PHP研究所、1992年、262頁。鈴木範久は、これ以外に山路愛山から殴打された事件に対して内村が無抵抗であったことを挙げている。鈴木範久『内村鑑三の一と思想』岩波書店、2012年、164頁。註：小原信は、これ以外に、日清戦争終結後の世界における非戦論的な傾向も内村の非戦論に影響したと述べている。小原信、前掲書、262頁。他方、鈴木は英字新聞を通して



た平和主義の新聞 *The Springfield Republican* が指摘される。

戦争は悪であるが、そこには否定的な面だけでなく神による積極的な面もあると、内村は「日露戦争とキリスト教の趨勢」において論じる。論拠は新約聖書の「神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神はすべてのことを働かせて益ととしてくださることを、私たちは知っています」（ローマ 8 : 28）である。具体的には、日露戦争において社会的に益となった面は、ロシアの自由化と日本のキリスト教の展開であったと、内村は以下のように論じている。

このふしぎなる世界にありては、悪は必ずしも悪結果を生じない。否、多くの場合においては、悪は善なる神の利用するところとなりて善き結果を生ずるに至る。……戦敗によって、自由の光明はヴォルガ、ドンの河辺にまで臨んだ。……しかしながら日本国を愛したもう天の神は、かかる小なる、かつ下等なる結果をもってしては満足したまわらない。……愛の神は、政治家輩の思いに過ぎて、不朽の結果を、この戦争により日本に持ち来たしたもうに相違ない。……余輩の見るところによってすれば、明治三十八年首途の今日ほど、キリスト教が日本人によって要求されたことはない。……今やわが国の有力者にしてキリスト教を求むる者は日々はその数を増しつつある。今日、最も売れ行きのよき書籍はキリスト教の聖書である。今日は、いずれのキリスト教会でも、常識にかなうキリスト教の説かる所は、聴衆をもって充滿する。キリスト教は今や臆面もなく、大胆に、日本国いずれの所においても説かれつつある。……しかしながら、この戦争の結果として何が来たろうが、われらキリスト教信者が信じて寸毫も疑わなただ一つの事がある。それはすなわち、すべての戦争、すべての騷擾、すべての動乱はみな神の栄光に終わるとのことである。<sup>11</sup>

---

トルストイの非戦論に影響を受けたと述べている。鈴木、前掲書、162-163頁。

<sup>11</sup> 『聖書之研究』1905年2月

内村はまた、「日露戦争より余が受けし利益」において、個人的にも日露戦争において益となることがあったと以下のように論じている。

一、私は第一に、この戦争において、生ける人類の歴史を目撃しました。そうして人類の歴史とは、その根元にさかのぼりますれば、国民の上に現われたる神の裁判であります。……ある人がかつて「歴史は神の撰理を大書した書である」と言いましたが、実にそのとおりであります。……二、日露戦争によって私は一層深く戦争の非を悟りました。……私はますます固い非戦論者となりました。……三、日露戦争によって私は多くの友を失いました。しかしそれと同時にまた多くの新たなる友人を得ました。

この戦争は、私にとり、友人の真偽を分かつための好個の試験石でありました。……ことにキリスト信者の最大多数が戦争の謳歌者であったことを見まして、私は一層深く、今のキリスト教会なるものの、わが活動の区域でないことをさとりました。……今や平和の主張者は、キリスト教会の内には少なくして、かえってその外において多くあります。(哲学者スペンサー、文豪フレデリック・ハリソン、モノキューア・コンウェル、トマス・ペーン) 12

戦争という人類の歴史の背後にある神の顕現、非戦論の確認、非戦論者との交流の広がり、この3点が指摘されている。

さらに注目すべきは、「世界の平和はいかにして来るか」において、すでにイエスの再臨を内村が論じていることである。

ゆえに、彼の降臨待たずして、世に平和はおこなわれない。世界の平和はひっきょうするに、キリストの再臨を持って初めて世におこなわるものである。 13

---

12 『新希望』1905年11月

13 『聖書之研究』1911年9月

このように、再臨運動が開始される約6年前において、世界平和はキリストの再臨によって実現すると、すでに内村は明言している。ただし、この段階において、前千年王国論までに再臨論は進展してはいない。

## C 第一次世界大戦の時期

1914年6月28日のサラエボ事件を契機にして7月28日にオーストリア＝ハンガリー帝国の宣戦布告により第一次世界大戦が開始された。日本は日英同盟に基づき、8月23日にドイツ帝国に対して宣戦を布告し、連合国の一員として参戦する。開戦してまもない11月に内村は、「欧州の戦乱とキリスト教」において大戦の意味について論じた。その際、まず、アモス書から以下の二箇所を引用している。

「主はこう仰せられる。『ユダが犯した三つのそむきの罪、四つのそむきの罪のために、わたしはその刑罰を取り消さない。彼らが主のおきてを捨て、そのおきてを守らず、彼らの先祖たちがしたがったまやかしものが彼らを惑わしたからだ。わたしはユダに火を送ろう。火はエルサレムの宮殿を焼き尽くす。』

アモス 2:4-5

「ふたりの者は、仲がよくないのに、いっしょに歩くだろうか。」

アモス 3:3

これらの聖書の言葉は、罪に対して神は刑罰をあたえることと、二つの陣営に分かれる不可避性を述べている。さらに内村は以下のように論じる。

今回の欧州大戦争は、欧州人の上に臨みし神の厳罰と見るが適当であると思う。……ドイツも英国も、その他の欧州諸国もみな、神を信じると称しながら、明らかに神の律法にそむき、聖書をあざけり、キリストを度外視して、公然と神を侮り来たったのである。……欧州今回の大戦争は、われら今日の日本のキリスト教信者に信仰の独立を促す雷霆の声

であると思う。<sup>14</sup>

内村は、このように、戦争するに至ったドイツ、イギリス等の西洋キリスト教諸国に対して神の懲罰があることと、日本のキリスト教信者が独立することが促進できることを論じている。

留学経験のある内村は、第一次世界大戦にアメリカは参戦しないと考えていた。ピューリタンが建国したキリスト教国であるアメリカは特別な国とみなしていた。しかし、1917年3月にロシア革命が生起してロシア臨時政府が設立した翌4月に、アメリカは大戦に参加した。これは内村を失望させた。5月に「米国の参戦 平和主義者の大失望」と題して内村は以下のように論じる。

しかして、よし米国人はついに彼の命に従わずといえども、ついに再びその聖子を送りたまいて、戦争を絶ち平和を来たしたもう。しかして誰か知らん、彼、再び現れたもう時には、彼ご自身が白亜館を占領したまいて万国を号令したまわざるなきを。米国今回の参戦は平和主義者にとり大なる失望である。そは米国の取りたるこの歩武により、地上における戦争の寿命がさらに長められたからである。<sup>15</sup>

アメリカがイエスによって平和を実現し、イエスの再臨はアメリカを起点として世界に平和を宣告するという内村の期待は裏切られた。また、アメリカが参戦することにより戦争はさらに継続するとの内村の予想は外れた。1918年9月にブルガリアが、10月にはオスマン帝国が降伏し、11月3日にはドイツ革命が開始され、4日にはオーストリア=ハンガリー帝国が降伏したからだ。そして11月11日にはドイツ軍と連合軍との間に休戦協定が成立し、1919年1月28日のパリ講和会議開催に至るのであった。

---

<sup>14</sup> 『聖書之研究』1914年11月

<sup>15</sup> 『聖書之研究』1917年5月

#### D 第一次世界大戦と再臨論

内村の再臨論は、アメリカの参戦を契機にして展開する。1917年7月の「戦争廃止に関する聖書の明示」においては、以下のように再臨の時に裁きがあると論じられている。

今や平和運動に最も熱心なる者は、常にキリスト教の大敵をもって目せらるる社会主義者であって、教会と牧師とはおおむね軍旗の祝福者、戦争の奨励者である。古今東西変わることなしである。キリスト再臨の時にまず第一にさばかるる者は誰であろうか。<sup>16</sup>

確かに、日露戦争の時に非戦論をとった者には、基督教徒だけでなく社会主義者も多くいた。<sup>17</sup>内村はまた、キリストの再臨により戦争が廃止されるとも以下のように論じている。

戦争廃止は、神がご自身の御手に保留したもう事業である。これは、神の定めたまいし、世の審判者なるキリストの再臨をもって実現さるべき事である。イザヤ2:4以下、ミカ4:3以下。……平和の君の降臨ありて、平和の実現があるのである。詩篇46:9。……大胆に明白に、この欧州大戦争の終わるところは聖書の明示する世界人類の大審判の開始であると唱道せしがごときは、確かに世界思想の一傾向として見るべきである。<sup>18</sup>

---

<sup>16</sup> 『聖書之研究』1917年6月

<sup>17</sup> 政地仁によれば日露戦争に際して非戦論を唱えた主な者は、以下の通りである。社会主義者：堀利彦、幸徳秋水、基督教徒：安部磯雄、木下尚江、片山潜、ユニテリアン協会員：西川光二郎、石川三四郎、河上清、牧師：柏木義円、住谷天来（評論家から後に牧師）、宮川巳作、ニコライ神父。日露戦争において戦争に賛成した主な牧師は、植村正久、本多庸一、小崎弘道、海老名弾正である。「キリスト信者にいたるまで、ほとんどみな戦争に賛成してしまった」と政地は述べている。政地仁『内村鑑三伝』教文館 1977年、405-407頁。

<sup>18</sup> 『聖書之研究』1917年7月

内村がここで新たに引用したミカ書と詩篇の箇所は以下である。

「主は多くの国々の間をさばき、遠く離れた強い国々に、判決を下す。彼らはその剣を鋤に、その槍をかまに打ち直し、国は国に向かって剣を上げず、二度と戦いのことを習わない」

ミカ書 4:3

「主は地の果てまでも戦いをやめさせ、弓をへし折り、槍を断ち切り、戦車を火で焼かれた」

詩篇 46:9

1917年12月の「戦争と伝道」では、戦争は再臨の兆候であり、福音をそれまでに伝えなければならないと論じられている。

そうして戦争はキリスト再臨の確かなる徴候であります。ゆえに私もはすべての方法を尽くして、この時にあたりて、世の人にキリストの福音を伝えなければなりません。<sup>19</sup>

翌1918年7月の「平和来」では、最後の戦争（ハルマゲドン）と推定されるさらに大規模な戦争が将来において起きることを内村は予言している。第二次世界大戦が生起することの預言であると考えられる。

この戦争はすんだ。しかし、さらに大なる戦争は起りつつある。英米戦争であるか、英民族対ラテン民族の戦争であるか、その事はわからない。しかしながら、こたびの戦争よりもさらにさらに大なる戦争の起りつつあるは、預言者の言を待たずして明らかである。……さらばわれらは何をなさんか？ 時を獲るも時を獲ざるも平和の福音を唱えんのみ。人をしてキリストによりて神と和らがしめ、しかして永久に破れざる平和

---

<sup>19</sup> 『聖書之研究』1917年12月

を地上に來たさんのみ。キリストのみ、眞の平和の君である。<sup>20</sup>

大なる戦争が起きるまでは、イエスの福音を伝え、平和が維持されるように努力することを、内村は勧めている。

## 2 聖書における再臨のしるし

ところで、聖書は再臨の具体的な現れについてどのように述べているのであろうか。何が聖書における具体的な再臨のしるしであろうか。聖書における再臨のしるしは、神の恩恵を実証しているしるし、神に対する反抗を示しているしるし、神のさばきを示すしるしの三つのしるしが挙げられる。根拠となる聖書の言葉を提示して順にこれらのしるしを見ていく。

### A 神の恩恵を実証しているしるし

積極的に神の恩恵を実証するしるしには、全世界のすべての国民への伝道とイスラエルの救いが述べられている。根拠となる聖書の言葉を列挙する。分類に関しては『新キリスト教辞典』（いのちのことば社、1991年）を参照した。

#### ① すべての国民への伝道

昇天を前にしたイエスが語った以下の宣教命令が再臨のしるしである。福音が全世界に全民族に伝えられることである。

「この御国の福音は全世界に宣べ伝えられて、すべての国民にあかしされ、それから、終わりの日が來ます」

マタイ24：14

「こうして、福音がまずあらゆる民族に宣べ伝えられなければなりません」

マルコ 13：10

---

<sup>20</sup> 『聖書之研究』1918年7月

## ② イスラエルの救い

救いは異邦人に開始され、終末においてはかたくなであったイスラエルに展開する。

「その奥義とは、イスラエル人の一部がかたくなになったのは異邦人の完成のなる時までであり、こうして、イスラエルはみな救われる、ということ。こう書かれているとおりで。『救う者がシオンから出て、ヤコブから不敬虔を取り払う。これこそ、彼らに与えたわたしの契約である。それは、わたしが彼らの罪を取り除く時である』彼らは、福音によれば、あなたがたのゆえに、神に敵対している者ですが、選びによれば、父祖たちのゆえに、愛されている者なのです。神の賜物と召命とは変わることがありません」

ローマ 11 : 25-29

## B 神に対する反抗を示しているしるし

神に対する反抗が、以下のように様々な形で起きることが予言されている。

### ① 激しい苦難

神を信じる民は、人々に憎まれて苦しみ、殺されたりする。この苦難の後には天変地異が生起することが再臨のしるしになる。

「そのとき、人々は、あなたがたを苦しいめに会わせ、殺します。また、わたしの名のために、あなたがたはすべての国の人々に憎まれます」

マタイ 24 : 9

「そのときには、世の初めから、今に至るまで、いまだかつてなかったような、またこれからもないような、ひどい苦難があるからです」

マタイ 24 : 21-22

「だが、これらの日の苦難に続いてすぐに、太陽は暗くなり、月は光を放たず、星は天から落ち、天の万象は揺り動かされます。そのとき、人の子のしるしが天に現われます。すると、地上のあらゆる種族は、悲しみながら、人の子が大能と輝かしい栄光を帯びて天の雲に乗って来るのを見るのです」

マタイ 24 : 29-30



## ② 背教

背教が起こり、偽キリストや偽予言者が多く起こり奇跡を起こして人々を惑わすという再臨のしるしである。

「また、そのときは、人々が大ぜいつまずき、互いに裏切り、憎み合います。また、そのときは、人々が大ぜいつまずき、互いに裏切り、憎み合います。また、にせ預言者が多く起こって、多くの人々を惑わします。不法がはびこるので、多くの人たちの愛は冷たくなります」

マタイ 24 : 10-12

「にせキリスト、にせ預言者たちが現われて、できれば選民をも惑わそうとして、大きなしるしや不思議なことをして見せます」

マタイ 24 : 24

「さて兄弟たちよ。私たちの主イエス・キリストが再び来られることと、私たちが主のみもとに集められることに関して、あなたがたにお願いすることがあります。霊によってでも、あるいはことばによってでも、あるいは私たちから出たかのような手紙によってでも、主の日がすでに来たかのように言われるのを聞いて、すぐに落ち着きを失ったり、心を騒がせたりしないでください。だれにも、どのようにも、だまされないようにしなさい。なぜなら、まず背教が起こり、不法の人、すなわち滅びの子が現われなければ、主の日は来ないからです」

Ⅱテサロニケ 2 : 1-3

「しかし、御霊が明らかに言われるように、後の時代になると、ある人たちは惑わす霊と悪霊の教えに心奪われ、信仰から離れるようになります」

Ⅰテモテ 4 : 1

「終わりの日には困難な時代がやってくることをよく承知しておきなさい。そのときに人々は、自分を愛する者、金を愛する者、大言壮語する者、不遜な者、神を汚す者、両親に従わない者、感謝することを知らない者、汚れた者になり、情け知らずの者、和解しない者、そしめる者、節制のない者、粗暴な者、善を好まない者になり、裏切る者、向こう見

ずな者、慢心する者、神よりも快樂を愛する者になり、見えるところは敬虔であっても、その実を否定する者になるからです。こういう人々を避けなさい」

Ⅱ テモテ 3 : 1-5

### ③ 反キリスト

イエスがキリストであることを否定し神に敵対する反キリストが現れることがしるしになる。

「だれにも、どのようにも、だまされないようにしなさい。なぜなら、まず背教が起こり、不法の人、すなわち滅びの子が現われなければ、主の日は来ないからです」

Ⅱ テサロニケ 2 : 3

「小さい者たちよ。今は終わりの時です。あなたがたが反キリストの来るの事を聞いていたとおり、今や多くの反キリストが現れています。それによって、今は終わりの時であることがわかります」

Ⅰ ヨハネ 2 : 18

「偽り者とは、イエスがキリストであることを否定する者でなくてだれでしょう。御父と御子を否認する者、それが反キリストです」

Ⅰ ヨハネ 2 : 22

「イエスを告白しない霊はどれ一つとして神から出たものではありません。それは反キリストの霊です。あなたがたはそれが来ることを聞いていたのですが、今それが世に来ているのです」

Ⅰ ヨハネ 4 : 3

「なぜお願いするかといえば、人を惑わす者、すなわち、イエス・キリストが人として来られたことを告白しない者が大ぜい世に出て行ったからです。こういう者は惑わす者であり、反キリストです」

Ⅱ ヨハネ 7

## C 神のさばきを示すしるし

戦争、地震、飢饉、疫病、天変地異が、神のさばきをあらわすしるしになる。

① 戦争

戦争や暴動は必ず終末に起きると記されている。

「また、戦争のことや、戦争のうわさを聞くでしょうが、気をつけて、あわてないようにしなさい。これらは必ず起こることです。しかし、終わりが来たのではありません」

マタイ 24 : 6

「また、戦争のことや戦争のうわさを聞いても、あわててはいけません。それは必ず起こることです。しかし、終わりが来たのではありません」

マルコ 13 : 7

「戦争や暴動のことを聞いても、こわがってはいけません。それは、初めに必ず起こることです。だが、終わりは、すぐには来ません」

ルカ 21 : 9

② 地震 飢饉 疫病 天変地異

戦争や大地震の結果としての疫病と飢饉、また天変地異がしるしになる。

「民族は民族に、国は国に敵対して立ち上がり、方々にききんと地震が起こります」

マタイ 24 : 7

「民族は民族に、国は国に敵対して立ち上がり、方々に地震があり、ききんも起こるはずだからです。これらのことは、産みの苦しみの初めです」

マルコ 13 : 8

「大地震があり、方々に疫病やききんが起こり、恐ろしいことや天からのすさまじい前兆が現われます」

ルカ 21 : 11

3 時代状況と再臨のしるし

再臨運動が開始される前後の時代状況は聖書の再臨のしるしとみなすことが

できるであろうか。世界的状況と日本の国内状況とを検証する。その際、聖書の再臨のしるしは、①世界宣教、②ユダヤ人の救い、③苦難、④背教、⑤反キリスト、⑥戦争、⑦地震、⑧飢饉、⑨疫病、⑩天変地異の10点とする。

### A 第一次世界大戦

1914年7月に開始されて1919年6月に及び、戦闘員死者900万人、非戦闘員死者1000万人もの多くの犠牲者を出した第一次世界大戦は、明らかに③苦難と⑥戦争と⑧飢饉が生起した空前の戦争であった。日本国内では、大戦前期は戦争景気の状態であったが、後期になると景気は反転し、1918年7月以降、米価高騰による富山における米騒動が全国に波及した。さらに同年8月以降には、炭鉱騒動が全国に波及していった。このために1918年9月に寺内内閣が倒れて原敬内閣の結成となった。日本においても③苦難と⑥戦争と⑧飢饉のしるしが成就したといえることができる。

### B バルフォア宣言とエルサレムの解放

1917年11月に公布されたバルフォア宣言は、ユダヤ人が国家を樹立することの可能性を内容としており、②ユダヤ人の救いを推進する者であったと考えられる。1917年12月に英軍がオスマン帝国を撃退してエルサレムに入城して同市を解放したことも、また、②ユダヤ人の救いを推進するものであったと考えられる。

### C ロシア革命

1917年11月のロシア革命は、社会主義国家を樹立した。これは無神論国家であり、内戦期だけでなくその後も、国内の教会を破壊し聖職者を処刑する反キリスト教的国家である。したがって⑤反キリストの権威が生起したものと十分考えられる。また内戦期には、旧皇帝軍と赤軍とウクライナ執政府軍との間の戦争が展開し、飢饉も広がったので③苦難と⑥戦争と⑧飢饉の成就とみなされる。

## D スペイン風邪と地震

スペイン風邪は、1918年3月から10月にかけて大流行した。感染者は世界人口の約3割である6億人に達し、死者は5000万人を越えた。これは第一次世界大戦の2倍以上の犠牲者数である。日本国内においても1918年9月から1919年4月にかけて流行し、感染者は人口の3分の1である2116万人にも及び、犠牲者は25万7千人を数えた。スペイン風邪の流行は、明らかに⑨疫病のしるしの成就だとみなされる。

地震に関しては1917年18日に静岡付近で起きたM6.0の地震と、1918年9月8日に択捉島沖で起きたM8.0の地震があるが、死者はそれぞれ2人と24人であった。桜島大噴火は1914年1月で時期が外れる。

以上の検証の結果を表にすると以下になる。

表1 再臨のしるしと成就した事柄

再臨のしるし	成就の有無	成就した事柄の内容
① 世界宣教	○	聖書翻訳の進展
② ユダヤ人の救い	○	バルフォア宣言とエルサレムの解放 1917.11
③ 苦難	○	第一次世界大戦 ロシア革命 米騒動 炭鉱騒動
④ 背教	○	ロシア革命
⑤ 反キリスト	○	ロシア革命
⑥ 戦争	○	第一次世界大戦 ロシア革命
⑦ 地震	○	静岡付近地震 1917.5 択捉島沖地震 1918.9
⑧ 飢饉	○	第一次世界大戦 ロシア革命 米騒動 炭鉱騒動
⑨ 疫病	○	スペイン風邪
⑩ 天変地異	×	桜島大噴火 1914.1

このように、10の再臨のしるしのうち9が歴史的に成就したと考えられる。したがって、このような歴史状況が欧米においても日本においても、再臨運動が展開する背景にあったと十分考えられる。

#### 4 再臨運動と大正期ホーリネス・リバイバル

第一次世界大戦の末期において再臨運動が開始され、それが2年後に衰退して、大正期ホーリネス・リバイバルが展開した。これら二つの宗教運動を、指導者と思想、時期区分と性格の観点から比較する。

##### A 再臨運動

###### ① 指導者と思想

再臨運動の先駆者である中田重治(1870-1939年)は、ムーディー聖書学院留学時に再臨について学んだ。また「聖化」の体験もして帰国した。そして東洋宣教会の伝道活動が展開する際に四重の福音として「新生・聖化・神癒・再臨」を掲げた。中田の再臨に関する思想は1901年から刊行された『聖潔之友』において表明されている。

一方、再臨運動の中心人物である内村鑑三(1861-1930年)は、1912年における愛娘ルツ子の死去、米国の親友ベルから送られてきた再臨運動に関する雑誌記事、時代状況に影響されたと考えられる。

中田の終末論は、①キリストの有形的再臨 ②前千年王国(Pre-millennialists) ③患難時代前携挙主義(Pre-tribulationism)に要約される。

内村の終末論は、以下のように論じられているように、①キリストの有形的再臨と②前千年王国論に要約される。

キリストの再臨とはキリスト御自身の再臨である、是は聖霊の臨在と称する事とは全然別の事である、又之と同時に死せる信者の復活があり、生ける信者の携挙があり(テサロニケ前書4章17節)、天国の事實的建設が行はる々のであって、人類の自然的進化、又は社会の改良、又は政治家の運動に由て神の国は地上に現はる々のではない、余は今は此等の事を疑はずして信ずるを得て神に感謝する、即ち余は今は所謂 Pre-millennialists(先づ再臨ありて然る後に神の国の出現ありと信ずる者)の一人であって Post-millennialists)の一人ではない。<sup>21</sup>

---

<sup>21</sup> 『聖書之研究』211号(1918年2月10日)

このように、両者の終末論は基本的には前千年王国論だが、内村には、患難時代前携拳主義はなく、さらに再臨時期の予想と神癒には反対し、千年王国や雲に関しては象徴的解釈をしていることに違いがある。<sup>22</sup>

## ② 時期区分と性格

再臨運動は以下のように時期区分ができる。<sup>23</sup>

表2 再臨運動の時期区分

	時期名	期間	展開した場所	主な出来事
1	準備期	1917.5-	東京	宗教改革四百年記念講演 ホーリネス教会設立
2	開始・高揚期	1918.1-	東京・大阪・京都・神戸・横浜	日本基督教希望団と柏木兄弟団の設立
3	対抗・充実期	1918.6-	東京・北海道・神奈川・岡山	基督再臨問題講演会 平信徒革正会設立
4	対抗・沈静期	1918.12-	東京・大阪	東京基督教青年会館借用拒絶事件
5	衰退・転換期	1919.6-	東京	私立衛生会講堂に移転

再臨運動の性格としては、第一に説教運動であったことが指摘される。再臨運動は内村鑑三と中田重治を中心として多くの牧師や信徒も加わり説教を行い、慈善活動や社会活動を基本的にはともなわない運動であった。

第二に、再臨運動は、超教派運動として開始された。具体的には、東洋宣教会と無教会を中心に、日本伝道隊、聖公会、日本基督教会、日本福音教会、メソジスト教会、大阪天満教会、プリマス・ブラズレンなどが参加した。

どうして再臨運動は二年間という短期間で終息したのであろうか。この間に関しては、第一次世界大戦が終結して平和な状態になり前千年王国論が適用で

<sup>22</sup> 内村の終末論に関しては以下を参照。拙著『内村鑑三と再臨運動』新教出版社、2012年、146-148頁。

<sup>23</sup> 同、99-139頁の第二章大正期再臨運動の経緯を参照。

きなくなったこと、国内に再臨運動に反対する海老名弾正を中心とする運動が展開したこと、さらに決定的なことには、説教者である内村が再臨を語らなくなったこと、が指摘される。内村は以下のように記している。

わが国の信仰状態において、私が先年なした以上にこれを説く必要を感じなかったからである。さらにまたその危険を感じたからである。<sup>24</sup>

「説く必要を感じなかった」理由は、再臨運動の展開した2年間において内村の終末論はほぼすべて語り尽くされたことだと考えられる。また、「その危険を感じたから」とは、再臨運動期間において「宮崎虎之助」「江原小弥太」などが、メシアだと自称したことがこの背後にあると考えられる。<sup>25</sup>

## B 大正期ホーリネス・リバイバル

第一次世界大戦が終わり平和が回復され、再臨運動は終息していった。国内では、資本家は好景気にあったが、格差社会で貧しさに苦しむ下層労働者による最初のメーデーが実施され、社会主義運動が進展した。このような時代状況において、再臨運動を継承するかのように、大正期ホーリネス・リバイバルが生起した。(史料2を参照)

### ① 指導者と思想

大正期ホーリネス・リバイバルは、1919年11月16日に開かれた淀橋教会徹夜祈祷会に始まる。秋山由五郎、柘植不知人、小原十三司、鈴木仙之助による飯田教会伝道会のための祈祷会は、翌日の夜明けまで続いた。午前2時半頃に一同は「霊的な勝利を得た体験」をした。彼らは夜行で長野に向かい、17日から20日にかけては、信州飯田での聖会に参加した。11月21日から23日にか

---

<sup>24</sup> 『内村鑑三信仰著作集』第13巻58頁

<sup>25</sup> 1919年8月には、中田は「偽者の出現」と題して「宮崎仏陀メシヤ」と称する者がいたことを記している。『聖潔之友』第670号 社説。同年11月には、中田は「今後人間より出る者の中で最大最美の人物は偽基督である。しかも彼はユダヤ人であると思われる」と述べている。『聖潔之友』第683号 社説。



けての三日間の断食祈祷会において、彼らは「悔い改めときよめの体験」をした。11月30日の日曜礼拝は「ペンテコステの日のような状況」になった。中田は情報を得て赤穂から急遽上京し、在京のホーリネス教会に動員令を発した。

28日金曜日に神田教会で聖別会が開かれ、リバイバル状況が東京の諸教会に広がるのであった。

大正期ホーリネス・リバイバルの指導者は、中田重治とホーリネス教会の牧師であった。運動の思想は、第一に、聖化（聖潔）が再臨の準備として位置づけられている。根拠となるのは以下の聖書の言葉である。

「すべての人との平和を追い求め、また、聖められることを追い求めなさい。聖くなければ、だれも主を見ることができません。

ヘブル書 12:14

「聖くなければ」すなわち、聖化の体験をしなければ、再臨する「主を見ることができない」と中田は考えたのである。中田は、再臨運動が開始された1918年（大正7年）1月3日発行の『聖潔之友』巻頭において、すでに以下のように述べている。

主の来るのが近い、今年になって殊に近きを感じず。新年が目出度いのは真に救はれたる聖徒にとりてのみである。何故なれば聖徒は携へ挙げられて主に遇ふことが出来るからである。大正7年に於て我等の為すべき事は数多くある。しかし其中で最も焦眉の急は聖潔のリバイバルの促進である。信者が若し全く聖くなければ主に御目に懸る事が能きぬ。再臨の日に終の救を与へんためである。<sup>26</sup>

この一年後である1919年1月の『聖潔之友』においても、中田は「我清ければ汝等も聖潔あるべし」「人もし潔からずば主に見えゆることを得ざるなり」と述べている。<sup>27</sup>

---

<sup>26</sup> 『聖潔之友』第587号

<sup>27</sup> 『聖潔之友』第639号

第二に、再臨の準備として、伝道して多くの人が救われることが説かれている。中田は「ひとりでも多く救われるならば、それだけイエスさまのおいでが近づいて来るわけになる」<sup>28</sup>と述べている。

具体的にいかにして人を救いに導くかに関して、同年 10 月発行『聖潔之友』の R.A. トレーによる「説教：救霊の要件<sup>(1)</sup>」では、「①凡ての罪をふりすてる事 ②神に対して全く服従する事 ③イエス・キリストの死を全く私共の立場として信頼する事 ④日々の生涯に勝利を得んために復活の主を信ずること」と論じられている。<sup>29</sup>また翌号においては「講演：救霊の要件<sup>(2)</sup>」において①種をたづさえる事 ②涙を流す事 ③出て行く事が提唱されている。<sup>30</sup>

第三に、再臨の前段階としてのイスラエルの救いを実現するために、イスラエルへの祈りが積極的にとられている。根拠は詩篇 122 篇 6 節の「エルサレムの平和のために祈れ。おまえを愛する人々が栄えるように」である。

『聖潔之友』において、中田が最初にイスラエルへの祈りを提唱したのは、1919 年 10 月であった。「イスラエルの為に祈れよ」との表題で「本紙の主筆はイスラエル人の為に祈る祈禱団の日本会長に選ばれ神田教会の野畑牧師は其副会長となられ毎月第一木曜日の夜祈禱会を開き此問題につきて研究して居る」と述べられている。<sup>31</sup>

同年 11 月には、説教「ユダヤ人の為め求禱」において、「彼等が一日も早く目覚めてイエスは全く真のキリストなりと認むべき事を神に祈禱すべき時にはあらざるか」とユダヤ祈禱団代表者である T.R. フランシスが述べている。<sup>32</sup>同年 12 月には、イスラエル号として巻頭において「イスラエル人の為に祈るべし」と題し、「我等はただ祈るのみならず彼等の救の為に幾らにても献金し英米の伝道会社に送りて其伝道費の幾分にもおぎないたいものである」と論じている。同号の論説では、フランシスの「歴史上のイスラエル」、藤井武の「世界歴史の中心」、待夫の「イスラエル人の望」、山口龍造の「ユダヤ人の世界政策」

---

28 『中田重治全集』第 1 巻 477-478 頁

29 『聖潔之友』第 681 号

30 『聖潔之友』第 682 号

31 『聖潔之友』第 679 号

32 『聖潔之友』第 685 号

等、ユダヤ人に関する論文が掲載されている。特に藤井武は、「人類歴史の中心はユダヤ人にある……やがて時が来るであろう。歴史の中心は再び舞台の正面に引出さるるであらう」<sup>33</sup>と論じている。

## ② 運動の時期区分と性格

大正期ホーリネス・リバイバルの時期区分をして、再臨運動と比較して、その性格を考察する。大正期ホーリネス・リバイバルは、以下のように時期区分ができる。<sup>34</sup>

表3 大正期ホーリネス・リバイバルの時期区分

	時期名	期間	展開した場所	主な出来事
1	開始期	1919.11-	東京・長野	淀橋教会徹夜祈祷会 信州飯田で聖会・神田教会の聖別会
2	展開期	1919.12-1920.1	札幌・東北・東京・大阪	東京聖会・ユダヤ人問題研究会・神田教会の聖別会・人心改造運動福音宣伝大会
3	最盛期	1920.2-8	北海道・東北・東京・名古屋・大阪・神戸・岡山	リバイバル伝道会・日本全国リバイバル大祈祷会・「リバイバル大会宣言」採択・作西リバイバル大会・関西リバイバル大会・中京リバイバル大会・リバイバル運動天幕伝道大会・北海道リバイバル大会
4	衰退期	1921.9-	東京・大阪・九州	中田、米国巡回旅行 翌年9月迄・大阪秋季聖別会・九州心霊的修養会

大正期ホーリネス・リバイバルの性格は、第一に、説教運動であったことが指摘できる。慈善運動や政治運動ではなくて、あくまでも説教によって展開した運動であった。この点で再臨運動に共通する。しかし、超教派的運動であった再臨運動とは異なり、ホーリネス教会を中心としてメソジスト教会、日本伝

<sup>33</sup> 『聖潔之友』第 687 号

<sup>34</sup> 詳しい年表に関しては表 6 を参照。

導体、フリーメソジスト教会等、アルミニウス神学の教会において展開した。<sup>35</sup>

第二に、大正期ホーリネス・リバイバルは聖化を求める運動であった。再臨運動は前千年王国論であったために危機的時代状況が運動の生起に大きく影響した。他方、聖化は時代状況に左右されえない教えである。また、再臨運動の指導者であった内村鑑三はカルヴィニズム神学の立場であったために、聖化の教理はない。聖化は、中田が立脚するジョン・ウェスレーのアルミニウス神学の教理である。ここに内村との神学における決定的な違いがある。

第三に、大正期ホーリネス・リバイバルには「宗教的恍惚状態」という現象が随所に見られた。泣き叫ぶ人、笑う人、踊る人、倒れる人が運動において現れ、それが運動の目的にさえおかれる傾向にあった。中田はリバイバル開始の1920年1月に、ヘブル書12:29「われらの神は焼尽くす火なり」を引用した後に以下のように述べている。(波線中田)

真に新生したる者にこの火が無いわけではない、ある筈である。火は霊である。……燃るといふことはペンテコステの再満である。多少にても火を有て居る者は聖霊の風によりて煽り立て貰うべきである。ただ其火を消ぬやうにする如き消極的態度では不可。盛んに燃していただくなれば何時までも燃て続く。燃て居る所に自由があり喜悅があり、能力がある。むろん多くの人救はれ潔められて主の聖名が崇めらるる。<sup>36</sup>

中田は聖霊を火にたとえて、それが燃え広がる事を唱道した。当初中田自身は聖霊による内面的変化を唱えたが、それが信徒においては外面的な感情的行動となり広がっていく傾向にあった。

これに対して内村鑑三は、「聖書の言を以て養はれし靈魂に聖霊の火が降る時に真の信仰復興が起るのである、斯かる信仰復興は狂熱的ではない、ウェスレ

---

<sup>35</sup> 大正期ホーリネス・リバイバルは、地方においてはメソジスト教会と協力して展開した。1919年11月には日本メソジスト教会の大成運動が開始され12月には大成運動宣言が公布されている。このこともリバイバル運動への協力に影響したと考えられる。

<sup>36</sup> 『聖潔之友』第692号(1920.1.8)巻頭「天来の火」

一を以て起りしやうなる冷静にして永続的の信仰復興である」<sup>37</sup>と批判した。内村にとっては、狂熱的ではなくて冷静な信仰復興こそが、永続する真の信仰復興であった。

他方、中田重治は、「リバイバルは其外部の顕はれば兎にも角にも、内部的の革正であり、本質的の変化であらねばならぬ」<sup>38</sup>と述べている。「其外部の顕はれば兎にも角にも」ということは、外部に現れた「宗教的恍惚状態」を中田は認めていると考えられる。内部が変われば外部も変わりうるというのが中田の主張である。

ところで、この「宗教的恍惚状態」に関しては、世界史において展開した宗教運動において多くの類例を確認することができる。ユダヤ教のハシディズム、ロシア正教における鞭身教徒や飛跳ね派、ピューリタン運動におけるシェーカーズ、イスラーム宗教運動のスーフィズム、日本の原始福音キリストの幕屋等にも「宗教的恍惚状態」が確認される。<sup>39</sup>

歴史学において、G. ルフェーブルが提唱した集合心性の観点からも「宗教的恍惚状態」は理解される。すなわち、「人類にあつては、集合体の構成メンバーは常に何らかの程度に集合心性を帯びているから、そのメンバーが全き意味で相互に異質なものとなることは決してないからである」<sup>40</sup>と定義されるように、「宗教的恍惚状態」はひとつの集合心性の表れだったと考えられる。

このように「宗教的恍惚状態」は他宗教にも見られる現象であるので、それがあるから真のリバイバルであるとかないとかと判断することはできない。

### ③ リバイバルの結果と背景

大正期ホーリネス・リバイバルの結果に関しては、以下のホーリネス教会の受洗者数と会員数の年ごとの変化表が参考になる。<sup>41</sup>

<sup>37</sup> 『聖書之研究』第235号(1920.2.10)

<sup>38</sup> 『聖潔之友』第716号(1920.6.24)

<sup>39</sup> ロシア正教におけるセクトに関しては、拙著『ロシア・キリスト教史』（教文館1999年）166-171頁を参照。

<sup>40</sup> 『革命的群衆』（創文社、1982年）21頁

<sup>41</sup> 日本ホーリネス教団歴史編纂委員会『日本ホーリネス教団史第一巻 ホーリネス

受洗者数と会員数の増加状況から、1921年が転換点になっていることがわかる。それまではそれほど増加していないが、1921年以降は、毎年、急激に増加している。

表4 大正期ホーリネス・リバイバル前後の受洗者数と会員数

年	受洗者数	会員数
1917	——	1,408
1918	324	1,653
1919	347	1,870
1920	308	1,667
1921	319	1,821
1922	570	2,732
1923	585	2,783
1924	758	3,123
1925	1,003	3,941
1926	1,916	5,257
1927	2,068	6,374
1928	2,214	7,874
1929	2,782	10,114
1930	4,311	12,046

また、リバイバルが開始された翌年の1920年には、受洗数も会員数もむしろ減少していることがわかる。1921年にも際だった増加は見られない。3年後の1922年からは受洗者も会員も増加し始めている。最終的には、受洗数は1930年には1920年の14倍に、会員数は約7倍になっている。これはリバイバルであると十分言うことができる。

ホーリネス教団歴史編纂委員会は、「大正8年のリバイバルは直ちに爆発的な信徒数増加をもたらすという結果には至らなかった。……このリバイバルによって信徒達の信仰がリバイブされたことが、その後の爆発的な進展に結びつい

ていったという見方をすることができるであろう」<sup>42</sup>と信徒における信仰復興が時間をかけて効果を上げていったと、判断している。

また、池上氏は、「やがて起るであろう再臨への強い『期待』に支えられ、リバイバル的集会の恒常化によって教会成長をうながす原動力となりえた」<sup>43</sup>と恒常化された集会を積極的に評価している。

大正期ホーリネス・リバイバルは教職者の間において生起して展開していった。したがって、この結果については、教職者の霊的覚醒が時間をかけて都市労働者階層の信徒へ浸透していったと結論することができる。

リバイバルが生起した背景は何であろうか。リバイバルが生起する直前の『聖潔之友』の内容を分析すると、「中田重治の説教による指導」と「徹底した聖書と聖化論の教育」と「信徒の自由な証」の3点がほとんど毎回掲載されていることがわかる。(史料1を参照)「説教」と「教育」と「信徒の証」がバランス良く提示され、しかもリバイバルが生起することが一貫した主題となっている。これがリバイバルの背景にあったと結論できる。

## 5 整理と課題

再臨運動と大正期ホーリネス・リバイバルとを比較すると次頁の表になる。

両者は、再臨を前提とする前千年王国論にもとづく説教運動であったことが共通するが、指導者、運動の範囲においていくらかの違いがあった。両者の大きな違いは、聖化と宗教的恍惚状態の有無にある。また、再臨運動の結果は信仰者の覚醒であるが、大正期ホーリネス・リバイバルの結果は主に教職者の覚醒であった。

---

<sup>42</sup> 同、412-413頁。

<sup>43</sup> 池上良正『近代日本の民衆キリスト教—初期ホーリネスの宗教学的的研究—』東北大学出版会、2006年、258頁。

再臨運動	大正期ホーリネス・リバイバル
前千年王国論 説教運動	
内村鑑三と中田重治が指導	中田重治と教職者が指導
超教派的	アルミニウス神学の教会中心
ほぼ全国に展開	東京を中心に関東地方中心に展開
大戦終結後に衰退	昭和期リバイバルに継承
再臨	聖化とイスラエルへの祈り
再臨運動反対活動とメシア自称者発生	宗教的恍惚状態発生
信仰者の覚醒と宣教	教職者の覚醒と宣教

今後の研究の課題として、第一に、大正期ホーリネス・リバイバルをホーリネス教会の宗教運動として位置付けること、特に昭和期ホーリネス・リバイバル（1930年）と比較することが挙げられる。

第二に、欧米における再臨運動と比較する必要がある。具体的には、同時期に欧米において展開した再臨運動だけでなく、過去において後千年王国論に基づいて展開された英国ピューリタン革命、米国の第一次信仰復興運動、第二次信仰復興運動、前千年王国論に基づく第三次信仰復興運動等と比較考察することである。

第三に、他宗教における再臨運動や千年王国的運動と比較することも研究課題になる。イスラームシーア派におけるマフディの再臨信仰、イラン仏教における弥勒下生信仰、中国における赤眉軍団信仰と太平道信仰、東南アジアにおけるサン・ホセ信徒団の反乱等、全世界的に生起した類似した宗教運動と比較することにより、再臨運動の普遍的要素を特定したい。

これらの研究により、人間の心に存する永遠への思いの本質が解明され、それを構造化することになるであろう。

（愛知教育大学教授・聖書キリスト教会牧師）



史料1 リバイバル直前の『聖潔之友』の内容

発行日、号	社説	説教	聖書教育	信徒の証
1919年 大正8年 1/2, 639	羊の年 新規 蒔直し	ホーリネス  「我清ければ汝等も <b>聖潔</b> あるべし」「 <b>人も し潔からずば主に見 えゆることを得ざる なり</b> 」	想苑：新しき年を 迎ふ「再臨の希 望」：「悔改と信仰」 我らの使命 泉田 生：「四重の福音を 宣伝すること」講 解：ヨハネの手紙 第一 山崎亭治 再臨 聖山賢治郎	
4/17, 654	伝道号 基督 もしよみがえ らざりしなら ば	説教 新しき人	想苑：完全な救 山崎亭治  日曜学課 我らを 助けたもう聖霊 教理 受洗まで	「真宗より基督へ 原勝治」「大なる救の 証詞 多胡寅治郎」 「我が宗教的経験 高井精吉」「春の伝道 旅行 UN 生」
4/23, 655	伝道旅行雑感	説教 <b>リバイバル</b> を 見ん 小原十三司「 <b>リバイバ ル</b> とはよみがえり、復 活、復興、回復、再興 の意味である」「これ から私は何年生きる か知ら無いが、私の生 きて居る間に一回で も <b>リバイバル</b> を欲し いものであると思っ てこれがために祈っ て居る」	研究 ホーリネス 聖霊とは何ぞや： 講解 ヨハネ第一 山崎亭治：論証 祈祷と犠牲	伝記 ジョン・スミス 求禱 中田重治
5/1, 656	内村氏の基督 教青年会館に おける講演問 題	説教：豊かなる生命	講解：ヨハネ第一 書	経験：「苦き杯」試練 から回復聖山賢治郎
5/15, 658 伝道号	説教：凡ての人の 受くべき救 (悔い改めと信仰)	論説：良心の宗教  日曜学課：悔改  想苑：国技館の倒潰は 何を教ふるか 聖山	教理：洗礼まで	実験：絶望より救はる 奇藤緑芳

		賢治郎		
5/22, 659	教会の革正の時来れり	論説：伝道法の改革 日曜学課：信仰	説教：祭壇の生涯 講解：ヨハネ第一書 山崎	証詞：「神の試練」いやし 本郷義雄
6/5, 661	ペンテコステと収穫	研究：ホーリネス <b>聖潔</b> とは何ぞや 日曜学課：祈祷	想苑：日々 <small>の</small> 教示 小原 講解：ヨハネ第一書 山崎	
6/12, 662	青年会館借用拒絶事件(8日の使用禁止)	論説：「 <b>リバイバル</b> の精神」三井生「我等をして祈らしむる動機」TY 日曜学課：愛	講解：ヨハネ第一書 山崎	想苑：「大に優れたる能力」野僕「天国民となる為め覚醒せよ」矢富照星
6/19, 663 伝道号	今は恵の時なり今は救の日なり	論説：日本を毒したる仏教 説教：悔改と赦罪	教理：受洗迄	実験「天窓の恩澤」献金の恵 証詞：「救はれ癒された証詞」井上幸枝「日蓮よりも能力ある基督」TY「カンテラの光と太陽の光」農民「小坂青年会員の証詞」救いの証
6/26, 664	予の見たる内村氏の無教会主義	論説：改正の人、耶蘇 三井生想苑： <b>リバイバル</b> の要素 日曜学課：教会	講解：ヨハネ第一書 山崎	実験：「聖霊を受けし実験」 <b>聖化</b> 野口らく
7/3, 665	<b>聖潔</b> の敵は罪である	研究：ホーリネス <b>聖潔</b> とは何ぞや 想苑：リバイバルの要素2： 日曜学課：洗礼	「ペンテコステ前後の弟子」山口生 講解：ヨハネ第一書 山崎	
7/10, 666 悪魔退治号	悪魔と縁切 教会内の悪魔	論説：不信と懐疑と自己満足(時代思想の特徴) 研究：666の数(神に逆らう者の数) 日曜学課：主の晩餐	想苑： <b>リバイバル</b> の要素3「 <b>リバイバル</b> のために祈るべきである」神癒	

第一次世界大戦と日本の教会

<p>7/17, 667 伝道号</p>	<p>此外別に救あ ることない</p>	<p>論説：農村と基督教 日曜学課：信者の交際</p>	<p>「働く為の休息」 素冠人</p>	<p>実験：「罪悪と病より 救はる」原惣一「歓喜 と希望の生涯に入る」 西牧一</p>
<p>7/24, 668</p>	<p>トーレー博士 来れり</p>	<p>説教：焼尽す霊 山崎  研究：ホーリネス <b>聖 潔</b>とは何ぞや 「<b>如何 にせば聖めらるる や</b>」TY 日曜学 課：礼拝</p>	<p>論説：此邪成る世  講解：ヨハネ第一 書 山崎</p>	<p>感想：「恩寵の十年」 伊藤文康 実験「致命的 疾患より救はる」渡 部正</p>
<p>8/1, 669</p>	<p>基督再臨説の 再燃/  大に伝道志願 者を募集す</p>	<p>講演：「聖霊の職務」 トーレー 教理：<b>聖潔の確証</b> 日曜学課：他人を基督 に導く事「聖い義しい 行いをするとき」「<b>潔 められ聖霊に充たさ るべきである</b>」</p>	<p>想苑：靈戦  講解：ヨハネ第一 書 山崎</p>	<p>通信「三たび父の病床 に侍して」 神癒 三井生</p>
<p>8/7, 670</p>	<p>箱根修養会  偽者の出現： 「宮崎仏陀メ シヤ」</p>	<p>雑報：箱根修養会記 「日本の<b>リバイバル</b> といふ事を中心とし て・・祈祷が献げられ た」日曜学課：世界 中の人々にエス様を お知らせする事</p>	<p>講解：ヨハネ第一 書 山崎  「基督者の7つの 特権」車田</p>	<p>証詞：「只管なる祈祷 に由りて得たる<b>聖潔</b> の恩恵」聖化 諏佐喜 雄太</p>
<p>8/14, 671</p>	<p>金か人か/何故 <b>聖潔</b>に反対す るか(カルビン 派批判)</p>	<p>論説「平信徒の奮起」 幼鷲「日本に要する<b>リ バイバル</b>も平信徒の 新しき徹底せる経験 に始り臆面もなく聖 霊の感動によって福 音は宣伝され祈祷 の霊に動かされ飽乏 も前進的に勝を得る 時の来たらん事これ 余の明暮れ望む処の <b>リバイバル</b>である」  日曜学課：誰にでも親 切をする事</p>	<p>講解：ヨハネ第一 書 山崎</p>	<p>証詞：「<b>聖潔の恵</b>」<b>聖 化</b> クララ 通信：3 箇所</p>

8/21, 672 伝道号	信じるなら純福音を信ぜよ	日曜学課：節制	教理：新生 西条 彌一郎	経験：「仏教よりキリスト教へ」救い 亀谷 凌雲「私しも限りなき救の喜を得て」救い 関口文作
8/28, 673	ラオデキヤ教会の異端/婦人の伝道「聖霊に感じたる者は男女を問はず語るべきである。予は婦人の聖職を信じ、婦人の牧師も伝道者もあるべきものなる事を信ずる」	論説：聖書と <b>聖潔</b> 山崎 想苑：「友情と歎喜」 「自省自戒」 日曜学課：神の国	講解：ヨハネ第一書 山崎  緑蔭独語：「感激のない宗教、これは死んだものだ」「平信徒の小さき日毎の歩みは其教会の建設に驚くべき価値を有するものである」TY	通信 4
9/4, 674	贖罪の目的	講演：内住の基督 ウィルクス 日曜学課：死んでから後	緑蔭独語：霊的再臨と肉体的再臨	「恩寵の回顧」救い・聖化・神癒 葛西「小さい天使」聖化 大西 龍磨 雑録 4
9/11, 675	基督教改造運動批判	講演：再臨と我等の責任 ウィルクス 日曜学課：聖書はどんな本か	緑蔭独語：再臨と復活	「靈戦の跡」伝道 ST 「手帳の中より」中島 真一「修養会に就ての所感」2
9/18, 676 伝道号	森村翁の永眠	説教：人を尋ぬる神	教理：神の子の自覚・救い・洗礼の意義	「筆に任せて」恵知園
9/25, 677	来るべき山陽修養会「我等は何の集会に出ても願ふことは長らく祈り求めしリバイバルが其集会から始められん事である」	説教：神の要求としての歎喜 MG「救はれ <b>聖潔められ</b> 聖霊に満たされて初めて神の要求なし給ふ様な喜びが我が心中に湧き出づるのである」 「喜悅は信仰の寒暖計である」「常に喜ぶべしとの果は実に <b>聖潔</b> と再臨の信仰より		「筆に任せて」「密室手記」ゆふえん生 雑録 2 教勢 5

		生ずる果である」		
10/2, 678	死なざれば生きず「 <b>聖められる</b> とは根本的に変化することである」「社告 来る 12月7日は全世界に於ける基督者が特別 <b>ユダヤ人のために祈る</b> 日に有之候」	想苑：「かくして我が飢渴は満たされぬ」MY 随筆：慰安の源泉 日曜学課：漁夫	講解：ヨハネ第一書 山崎	巡回記：飛騨入り 「近県旅行」山崎 教勢：浅草通信など4
10/9, 679	疾病問題/ <b>イスラエル人の為に祈れよ</b> 「本紙の主筆は <b>イスラエル人の為に祈る</b> 祈禱団の日本会長に選まれ神田教会の野畑牧師は其副会長となられ毎月第一木曜日の夜祈禱会を開き此問題につきて研究して居る」	論説：再び日本教化に就きて「第一に障害となつて居るものは宣教師や伝道者や牧師や信者が福音を充分体得して居らぬ事である・・・先づ福音の吾人に提供する凡ての恩恵を体得し、これを他人の要求に応じて分配することである」特に困難な北陸伝道に対して、①代理制度によらない②会堂と墓地を有する③其土地の人情を理解してこれに同情し得る人を伝道者として遣わす④永久的に伝道する 説教：神の要求としての祈禱と感謝 MG 説教：神の要求としての起用と感謝「要は <b>聖潔めらるる</b> ことに由りて常に喜び、絶えず祈り、凡て事感謝することが出来る」	想苑：慰め主なるキリスト 矢富照星	「かくして我が飢渴は満たされぬ」MY 教勢：4 「淀橋便り 9月17-21日の伝道会 5日間 810人 一日平均 162人 悔い改め者 33人(記名した分) 聖別会 5日間 813人 一日平均 163人 被聖者 70人 献金 5日間で 235円」
10/16, 680 伝道号	宗教的要求の満足 3ページ 「人間は到底真正の宗教無しに満足すべきものでは無			実験「驚くべき救」安新次郎 2ページ「堅き磐の上に」宮下長 教勢：淀橋 青山など

	い」			3
10/23, 681		<p>説教:救霊の要件(上) トーレー「①凡ての罪をふりすてる事②神に対して全く服従する事③イエス・キリストの死を全く私共の立場として信頼する事④日々の生涯に勝利を得んために復活の主を信ずること</p> <p>日曜学課：禁酒学課</p>	<p>論説：自発的宗教 「信者が聖霊に満たされて、<b>深き</b>能力ある生涯を送り聖霊の御助に由りて他人をして求道心を起さしむる底のもので無くてはならぬ」</p> <p>講解：ヨハネ第一書 山崎</p>	<p>実験：結核性腎臓炎より癒さる 福本清子</p> <p>巡回記：山陽修養会行中田「100数十名の悔改者日の本女学校の生徒の大多数が救はれ<b>深められた</b>(姫路天幕伝道)二度とも満堂の聴衆(呉ホーリネス教会特別伝道会) 教勢：小樽</p>
10/30, 682	<p>降誕節の全廃</p> <p>「①クリスマスは12月25日ではない②祝い方は益々俗化し底止することを知らない状態である③日曜学校の生徒に種類の芸を仕込んで人前に出す事は教育上よろしくない」「断じてクリスマスを全廃し、他人から極端に思はれてもよい、クリスマスに関係せぬようにすべきである」</p>	<p>説教：<b>聖深</b>と祈祷(リバイバルの体験)</p> <p>論説：基督者の雅量 心の宗教</p> <p>講演：救霊の要件(2) ①種をたづさえる事 ②涙を流す事③出て行く事</p> <p>求禱：九州での講演会のため</p> <p>想苑：健全なる基督者 ①祈り②<b>深い</b>良心③近き者に感化を及ぼす④謙遜⑤愛⑥犠牲の生涯⑦神に対する絶対の服従</p>		<p>教勢 2</p>

史料2 再臨運動と大正期ホーリネス・リバイバルの年表

時期	年月	内村鑑三の活動	中田重治の活動	時代状況
衰退・ 転換期	1919 大 8	1 日午後 聖書研究会 講演会場変更 (以下日曜日に下線)		1 日「基督教界の暗流 教会主義と無教会主義」『万朝報』
	6 月	<p>内村 大日本私立衛生会講堂</p> <p>8 日午後 講演 内村 大日本私立衛生会講堂</p> <p>15 日午後 講演 内村 大日本私立衛生会講堂</p> <p>22 日午後 講演 内村 大日本私立衛生会講堂</p> <p>29 日午後 講演 内村 大日本私立衛生会講堂</p>	<p>8 日 ペンテコステ 大会 柏木聖書学院</p> <p>12 日 <b>基督教青年 会館借用拒絶事件</b> 「悪魔退 治号」 6/26 664 号</p>	<p>ヴェルサイユ条約調 印 <b>第一次世界大戦 終結</b></p>
	7 月	<p>6 日午後 講演 千葉県東金</p> <p>13 日夜 説教 神戸日本基督教会</p> <p>16 日夜 講演 内村</p> <p>17 日夜 講演 内村 京都平信徒信仰革新会主催 京都基督教青年会館</p> <p>20 日 聖日集会 自宅</p> <p>26 日 祐之、東京帝大医学部合格</p> <p>27 日 聖日集会 自宅</p>	<p>1-10 日 日本伝道隊 主催</p> <p>大天幕講演会 大和 田銀行支店前空き地 中田・ダイヤ先生・ 青木幹太</p> <p>事務所：大 阪ホーリネス教会 悪魔退治号 7/10 666 号</p> <p>千葉県佐倉旅行</p> <p>R.A トーレー博士来 日</p> <p>17 日 トーレー、聖 書学院で講演</p> <p>20 日 トーレー、上海 に</p>	<p>17 日 警醒社『基督再 臨説を廃す』広告が掲 載</p> <p>「猶太の再建と基督 の再来」『大観』2-7： 内村義堅；『基督再臨 説を排す』富永徳磨刊 行</p>

		<p>25-30 日 基督信徒 箱根修養会</p> <p>箱根堂ヶ島大和屋</p> <p>日本伝道隊 ウィル クス</p> <p>フリーメソジスト教 会 土山鉄次</p> <p>教界に革正を要し、 日本に大リバイバル を要する時なれば切 なる御祷告を乞ふ</p>	
8月	<p><u>3日</u>午前 講義 内村 柏木聖書講堂 『内村全集』刊行中止を警醒社に</p> <p><u>10日</u>午前 礼拝 内村 那須大丸温泉</p> <p><u>17日</u>午前 講義 内村 柏木聖書講堂</p> <p><u>24日</u>午前 説教 内村 那須</p> <p><u>31日</u>午前 説教 内村 今井館</p>	<p>「基督再臨説の再 燃」8/1 669号</p> <p>「偽者の出現」8/7 670号</p> <p>3日 仙台教会で説 教</p> <p>4日 宮城県遠田郡 小塩村で父母の石碑 建立 記念会 キリ スト教式法会</p> <p>北海道旅行：小樽の 小樽倶楽部で講演 妻あやめはメソジス ト婦人会で講演 登 別温泉で四泊休養 室蘭組合教会（日野 真澄牧師）献堂式</p> <p>弘前メソジスト教会 （山鹿元次郎牧師） で説教</p> <p>小坂の教会で説教</p> <p>25-30日 有馬修養 会 有馬温泉</p> <p>トマス 土山鉄次 御牧碩太郎河辺貞吉</p> <p>秋山由五郎 多辻春</p>	<p>「基督再臨説を批評 す」『六合雑誌』39-8： 日高沈聲；「宗教界の 現状及び将来」『新時 代』3-8：帆足理一郎</p> <p>「基督の再臨説騒ぎ」 『中央仏教』3-8：小 林正盛</p>



		吉 堀内文一	
9月	<p><u>7日</u>朝 講義 内村 今井館</p> <p><u>14日</u>朝 講義 内村 今井館</p> <p><u>21日</u>午後2時 講義</p> <p>講演会を<b>東京聖書講演会</b>と命名</p> <p>「モーセの十誡 総論」</p> <p>内村 大日本私立衛生会講堂</p> <p><u>28日</u>午後 講義</p> <p>「モーセの十誡第1条第2条」</p> <p>大日本私立衛生会講堂</p>	<p>岐阜県高山公会堂で説教</p> <p>北陸地方巡回</p> <p>11-14日 銚子修養会 大吠崎御風館</p> <p>パチット・ウィルックス 御牧碩太郎</p> <p>祈祷会・聖書講義・聖別会</p>	<p>26日基督教同志会発会講演会：富永・久布白直勝・帆足・吉野作造(欠席)</p> <p>オーストリア、サンジエルマン条約に調印</p>
10月	<p><u>5日</u> 午後 講義</p> <p>「モーセの十誡第3条」</p> <p>大日本私立衛生会講堂</p> <p><u>12日</u> 午後 講義</p> <p>「モーセの十誡第4条」</p> <p>大日本私立衛生会講堂</p> <p>柏木兄弟団有志晩餐会 40人</p> <p><u>19日</u> 午後 講義</p> <p>「モーセの十誡第5条」</p> <p>大日本私立衛生会講堂</p> <p>23日「世界の現状と基督の再臨」</p> <p>千葉町 同盟基督協会会堂</p> <p><u>26日</u> 午後 講義</p> <p>「モーセの十誡第6条」</p> <p>大日本私立衛生会講堂</p>	<p>トーレー再び来日</p> <p>1-10日 山陽修養会 姫路市大天幕内 事務所：姫路メソジスト教会</p> <p>R.A トーレー博士 京都と呉に寄る</p> <p>トーレーは「きよめは説かない」</p> <p>「<b>イスラエル人の為</b>に祈れよ」10/9 679号 ユダヤ祈祷団</p> <p>第10回九州修養会 福岡武蔵屋旅館</p> <p>御牧碩太郎 堀内文一</p> <p>羽後、ロスアンゼルス<small>の</small>聖書学校留学</p> <p>27日 中田 49歳</p>	

リバイバル開始期	11月	<p><u>2日</u> 午後 講義 「モーセの十誡第7条」 大日本私立衛生会講堂</p> <p><u>9日</u> 午後 講義 「モーセの十誡第8条」 大日本私立衛生会講堂 500人</p> <p><u>16日</u> 午後 講義 「モーセの十誡第9条」 大日本私立衛生会講堂</p> <p><u>23日</u> 午後 講義 「モーセの十誡 第10条」 大日本私立衛生会講堂</p> <p>27日 午後1時 長尾半平宅 東京聖書研究会婦人懇親会 夜 柏木兄弟団有志晩餐会 芝浦</p> <p><u>30日</u> 午後 講義 「律法と福音の関係」 大日本私立衛生会講堂</p>	<p>唐津・下関・赤穂・神戸・態内を巡回</p> <p>16日 <b>淀橋教会徹夜祈祷会</b>:秋山由五郎、柘植不知人、小原十三司、鈴木仙之助 17日夜明けに開始</p> <p>17-20日 信州飯田で聖会</p> <p>21-23日 三日間の断食祈祷会</p> <p>悔い改めときよめの体験</p> <p>中田は赤穂から急遽上京</p> <p>在京のホーリネス教会に動員令</p> <p>28日金曜日 <b>神田教会で聖別会</b></p> <p><b>リバイバル状況が東京の諸教会に広がる</b></p> <p>30日—関西:岡山から香川旅行</p>	<p>救世軍本営、神田に成り開館式</p> <p>日本メソジスト教会による大成運動開始</p>
リバイバル展開期	12月	<p><u>7日</u> 午後 講義 「罪の赦し」大日本私立衛生会講堂</p> <p>11日ユダヤ人問題研究講演会:東京聖書学院 内村「月足らぬ者」</p> <p><u>14日</u> 午後 講義 「完全なる救拯」</p>	<p>リバイバルが札幌、小坂、仙台、桐生、大阪などに広がる</p> <p>14日 神戸イエス・キリスト教会で説教 司会:青木澄十郎</p> <p>6日—福岡九州学院</p>	<p>日本メソジスト教会による大成運動宣言公布</p>

	<p>大日本私立衛生会講堂</p> <p>20 日 午後 東京聖書講演会婦人懇親会 今井館 50 人</p> <p><u>21 日</u> 午後 講義 「ベツレヘムの星」 有志のクリスマス晩餐会 大日本私立衛生会講堂</p> <p>24 日 午後 6 時 柏木兄弟団クリスマス晩餐会</p> <p>27 日 東京聖書研究会の学生と労働者約 40 人を招いて懇親会 柏木青年会を結成</p> <p><u>28 日</u> 説教 ローマ書 12:12 齊藤梅吉宅 30 人</p> <p>30 日 クリスマス献金 400 円を欧州戦争罹災者のためにフランチカーに託す</p>	<p>で説教</p> <p>長崎の東山学院・日本基督教会で説教</p> <p>長崎池田屋宿泊</p> <p>活水女学院で羽後の独唱後に説教</p> <p>5-7 日 東京聖会 新橋教館</p> <p>ウィルクス師 主催：城南信徒団</p> <p>11 日 午後 7 時 <b>ユダヤ人問題研究会</b> 柏木聖書学院 400 人</p> <p>内村・中田・藤井武・車田・ワイドナー</p> <p><b>イスラエル号</b></p> <p><b>28 日一 神田教会の聖別会</b></p> <p>秋山・土肥修平・柘植</p> <p>奈良、岡山県玉の献堂式、丸亀、伊勢の津など</p> <p>除夜祈祷会 300 人</p>	
<p>1920 大 9 1 月</p>	<p>2 日 新年会 今井館 「メサイア」</p> <p><u>4 日</u> 午後 2 時 講義「詩篇 8 篇」 大日本私立衛生会講堂</p> <p><u>11 日</u> 午後 講義「ダニエル書 1 章」 大日本私立衛生会講堂</p> <p>12 日 午後 妻とルツの墓参り</p> <p><u>18 日</u> 午後 講義「ダニエル書 2 章」 大日本私立衛生会講堂</p>	<p>1-5 第 22 回<b>新年聖会</b> 淀橋教会「説教者の説教よりも末日のリバイバルの起らんがため祈祷に集中する積り故敢て説教者の名を公表せず」</p> <p>P.ウィルクス、小島伊助、秋山由五郎</p> <p><b>大阪、札幌、桐生にリバイバル</b></p> <p>6-18 日 仙台聖別</p>	<p>国際連盟成立</p> <p>13 森戸辰男東大教授筆禍事件</p>

		<p>21日 モアブ婦人会 自宅</p> <p>25日 午後 講義「ダニエル書2章」 大日本私立衛生会講堂</p>	<p>会：中田 塩崎逸野</p> <p><b>25-2/1 人心改造運動福音宣伝大会</b></p> <p>長崎銀屋町メソジスト教会</p> <p>星野行中(聖公会)・米田豊(メソジスト) 柘植・小原・中田</p>	
リバイバル最盛期	2月	<p>日曜午後 講義「ダニエル書」 大日本私立衛生会講堂</p> <p>10日「<b>信仰復興の真偽</b>」『聖書之研究』716</p> <p>10日 東京聖書講演会帝国大学出身者の会食懇話会 四谷三河屋</p> <p>18人</p> <p>11日 学術講演会</p> <p>星野鉄男 内村「天文学上より見たる夜のなき世界」今井館</p>	<p>3-5日 有馬有志祈禱会</p> <p>御牧・秋山・河辺・堀内・竹田・ウィルクス</p> <p>6-8日 大阪ホーリネス教会</p> <p>8日夜 神戸湊川伝道館</p> <p><b>15-22 リバイバル伝道会</b> 淀橋教会 中田</p> <p>27-29 山形修養会 中田・菅野・小原</p> <p>香澄町ホーリネス教会</p> <p>「ホーリネス教会ペンテコステの大聖会にいたしたく願って居ります」</p>	
	3月	<p>「ダニエル書」講義 内村60歳</p> <p>住友寛一の結婚問題で藤井武去る</p>	<p>14-18 上諏訪聖会</p> <p>秋山・柘植・小原</p> <p>17 ホーリネス教会第3年会</p> <p><b>26-30 日本全国リバイバル大祈禱会</b></p> <p>700人以上 聖書学</p>	<p>13 尼港事件</p> <p>28 市川房枝ら新婦人協会を設立</p>

			<p>院 大天幕</p> <p>「全き聖潔と主の再臨を信ずる人のみに招待状を発する積である」</p> <p>中田・御牧硝太郎・小島伊助・ウィルクス・車田秋次・堀内文一 超教派：日本伝道隊・日本自由メソジスト教会・日本アライアンス教会・日本基督教会・日本メソジスト教会・日本組合基督教会・日本聖公会・日本美普教会・ヘフジバ・ミッション 朝鮮人・中国人・英米人・スウェーデン人も出席</p> <p><b>「リバイバル大会宣言」採択</b></p>	
4月	<p>星之友会開催</p> <p>17日「聖書の立場より見たるキリストの再臨」18日「基督再臨の二方面」摂津西之宮での講演</p> <p>25日「ヨブ記」講義</p>	<p>14日 <b>作西リバイバル大会</b></p> <p>津山 組合教会</p> <p>予定変更して朝鮮旅行</p> <p>23夜-25日 修養会</p> <p>光州ホーリネス教会 7-80人</p>	15 同志社大学設立認可	
5月	<p>「ヨブ記」講義</p> <p>「ペンテコステの出来事」『聖書之研究』238</p>	<p>12-18日 <b>関西リバイバル大会</b></p> <p>神戸イエス・キリスト教会 秋山・河辺・竹田・御牧・青木・中田・堀内</p> <p>18-22日 <b>中京リバイバル大会</b></p> <p>名古屋市中央区中央教</p>	<p>2 日本最初のメーデー</p> <p>日本基督教会連盟、朝鮮問題等についての宣言書発表</p> <p>15 友愛会・信友会など15団体、労働組合同盟会を結成</p>	

			会 秋山・河辺・御牧・中田等  23-30 日 <b>リバイバル運動天幕伝道大会</b>  神田諏訪町神田警察署近辺 中田等	
	6月	「ヨブ記」講義	福島、東北、信越等に巡回 胸部に痛み	マルクス『資本論』
	7月	20日全国協同伝道信徒修養会 箱根 「新約聖書大観」 弟子から反対		
	8月	長男祐之と十和田湖旅行 『山上の垂訓に関する研究』	中田・柘植による北海道巡回：小樽・札幌・野付牛・網走・釧路等  札幌で浅見仙作(無教会)と会堂  11-15日 <b>北海道リバイバル大会</b> 北一条教会  ジョン・パチェラー (アイヌ伝道)  25-30日 有馬修養会	
リバイバル衰退期	9月	木曾、諏訪に伝道 「ヨブ記」講義 『モーセの十誡』	3-7日 修養会 銚子御風館  21日 リバイバル運動第二回天幕大伝道会 東京本郷3丁目  22日 <b>中田、米国巡回旅行</b>	
	10月	「ヨブ記」講義		3日 賀川豊彦『死線』

第一次世界大戦と日本の教会

	黒岩涙香の葬儀に参列		を越えて』刊 5-14 日 第8回世界日曜学校大会 日本禁酒同盟成立
11月	「ヨブ記」講義 湯河原滞在	12日 渡米の途「東洋宣教会ホーリネス教会員に告ぐ」ホーリネス教会の統計：正会員2000人、教会数約70、献金額一人13円強 目標：全自治	
12月	「ヨブ記」最終講義 警醒社と和解		大杉栄ら日本社会主義同盟創立
1921 1月	「ローマ書」講義 聖書研究会		
2月	「ローマ書」講義		
3月	「ローマ書」講義 『婚姻の意義』 今井館日曜学校開始		
4月	「ローマ書」講義		
5月	「ローマ書」講義	第二回日本全国リバイバル大会	